

科 目 名	人間学研究法		副題		
担 当 者	犬塚 典子・渡邊 由己（オムニバス）				
開 講 期	前期	単位数	2 単位	配当年次	1 年次
授業の概要	人間学の研究法は研究のデザインをはじめ、データ収集の技法や各種の方法論的アプローチ、さらには修士論文作成の手法について理解を深める。 犬塚担当（8回）は、質的研究を行うための知識と技法を学ぶ。関連領域の基礎的な論文を読み、先行研究の検討、文献リストの作成、概念・言葉の定義、論点・議論の整理法などを身につける。まとめとして、K J 法、セブン・クロス・ワークショップを行い、論文執筆のためのアウトライン作成を試みる。 渡邊担当（7回）は、実証的研究（量的研究）の理論と実際を学ぶ。また、なぜ方法論的に対立する量的、質的研究者がともに人間学研究を発展させて来たのかについて、存在論、認識論のリフレクションから考察する。				
授業のねらい・到達目標	1. 量的研究方法および質的研究方法について基本的な理解を深める。 2. 各自の研究テーマにおけるリサーチクエスションと合致した研究方法を見出す。				
授業の方法・授業計画					
1	人間学研究法Ⅰ：存在論的、認識論的、方法論的リフレクション（渡邊）				
2	研究法のための存在論、認識論（渡邊）				
3	研究法のための方法論（渡邊）				
4	実証的研究①実験法（渡邊）				
5	実証的研究②横断的研究（渡邊）				
6	実証的研究③縦断的研究（渡邊）				
7	実証的研究④調査票調査（渡邊）				
8	人間学研究法Ⅱ：ライフコース研究を手がかりに（犬塚）				
9	質的研究①先行研究の検討、文献リストの作成（犬塚）				
10	質的研究②概念、言葉の定義（犬塚）				
11	質的研究③歴史的調査（犬塚）				
12	質的研究④ケース・スタディ（犬塚）				
13	質的研究⑤論点、議論の整理（犬塚）				
14	情報整理について（K J 法とセブン・クロス・ワークショップ）（犬塚）				
15	修士論文のアウトラインを考える（犬塚）				
期末					
授業に関する連絡	ポータルサイトででんでんばんで掲示する				
評価方法及び評価基準	各回に与える課題・レポート（50%）、及び発表（50%）を中心に評価する。				
事前・事後学習の内容	質的研究に関しては資料の読み込み、データの収集および分析が事前・事後共に課せられるので十分な準備の上、出席すること				
履修上の注意	リーディングアサイメントは授業初日に提示する。				
テキスト	野村康 2017 「社会科学の考え方」 名古屋大学出版会 9784815808761				
参考文献	「創造の方法学」高根正昭 講談社 2014 「動きながら識る、関わりながら考える」伊藤哲司・能智正博・田中智子著 ナカニシヤ出版				